

河川敷運動場の一部廃止について

令和3年1月

文化スポーツ振興部 スポーツ課

現在、市が管理している河川敷運動場は、マレットゴルフ場を含めて19施設あり、千曲川沿いに11施設、犀川沿いに8施設となっている。

■ 河川敷運動場の状況（上流からの順番）

千曲川水系			犀川水系	
No.	施設名	令和元年東日本台風 災害復旧状況(予定)	No.	施設名
1	塩崎運動場		1	七二会運動場
2	西横田運動場	令和3年3月	2	安茂里運動場
3	西寺尾運動場	令和3年度中	3	犀川南マレットゴルフ場
4	小島田運動広場	復旧済み	4	犀川南運動場
5	落合運動場	令和3年度中	5	犀川第一運動場
6	万年島運動場		6	裾花マレットゴルフ場
7	屋島運動場	令和3年度中	7	犀川第二運動場
8	千曲川パークフロントスポーツ広場	復旧済み	8	更北運動場
9	若穂マレットゴルフ場	復旧済み		
10	若穂多目的広場（グライダー場）	復旧済み		
11	豊野パークサイドパークマレットゴルフ場	復旧済み		

(1) 浸水被害

河川敷運動場は、堤外地にあることから浸水被害を避けることはできないが、近年は、気候変動による豪雨の発生件数が全国的に増加傾向で、河川の増水リスクも高まっている。

本市においても、千曲川水系の運動場は、平成25年、平成29年、令和元年と頻繁に浸水しており、令和元年東日本台風では、全施設が被災し、復旧に要する費用も多額となった。



令和元年東日本台風災害

- ・被災スポーツ施設復旧費（見込） 約6.8億円
内：千曲川水系河川敷運動場復旧費（見込）約3.1億円

(2) 河川敷運動場の今後の方針

河川敷運動場の内、千曲川水系の運動場は、被災する可能性が高いことから、利用者数や近傍同類施設の有無等を勘案し、**見直し（廃止・縮小）**の必要性がある。

犀川水系の運動場は、比較的用户も多く、浸水被害の可能性も少ないことから、当面は、維持していく。

(3) 河川敷運動場利用者数

※マレットゴルフ場、若穂多目的広場、千曲川バレーフロントスポーツガーデン除く

□ 1面当たりの利用者数の多い順（H30年度）

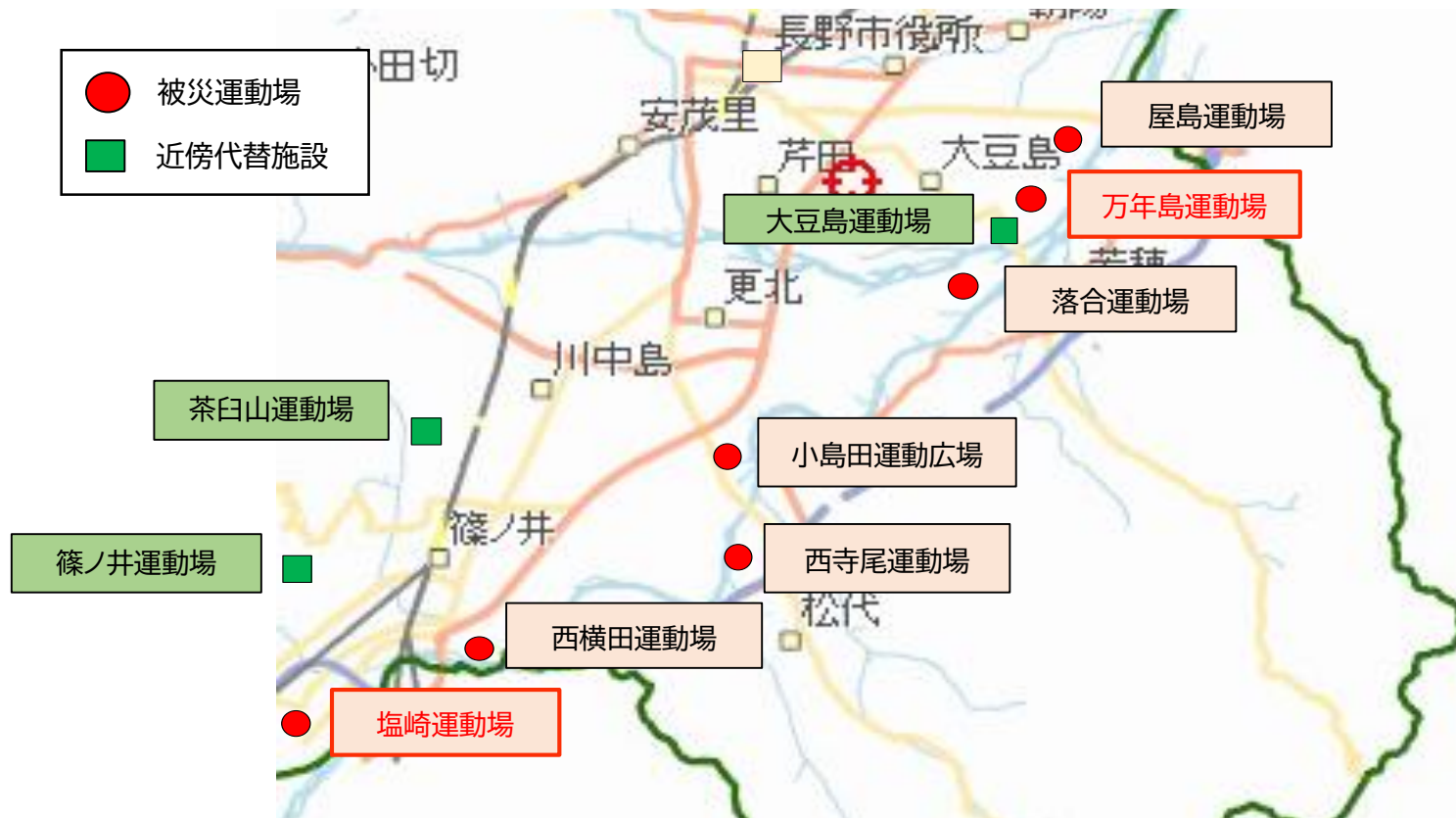
千曲川水系				犀川水系			
施設名	年間利用者数		グラウンド 面数	施設名	年間利用者数		グラウンド 面数
	H29	H30			H29	H30	
西横田運動場	12,600人	21,000人 (7,000人/面)	3面	更北運動場	21,400人	36,500人 (9,100人/面)	4面
屋島運動場	11,100人	12,600人 (4,200人/面)	3面	犀川第一運動場	32,900人	43,200人 (7,200人/面)	6面
落合運動場	10,900人	9,100人 (2,300人/面)	4面	犀川第二運動場	86,000人	95,200人 (6,800人/面)	14面
西寺尾運動場	8,500人	4,100人 (2,100人/面)	2面	犀川南運動場	17,900人	13,100人 (3,300人/面)	4面
万年島運動場	1,200人	1,300人 (1,300人/面)	1面	安茂里運動場	1,700人	1,500人 (1,500人/面)	1面
塩崎運動場	660人	720人 (360人/面)	2面	七二会運動場	5,800人	2,000人 (1,000人/面)	2面
小島田運動広場	—	—	1面				

※ 1面当たりの利用者数：端数調整

1 塩崎運動場・万年島運動場の廃止

令和元年東日本台風で被災した施設の内、塩崎運動場及び万年島運動場については、利用者が少なく、近傍に同類施設もあることから、令和2年度をもって廃止したい。

□位置図 ※マレットゴルフ場、千曲川リバーフロント、若穂多目的広場除く



(1) 塩崎運動場

施設特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が少ない(平成30年度 720人)。 ・立地的にアクセスが悪く、進入用道路も狭い。 ・千曲川が増水した際は、河川敷運動場の中で最初に浸水するため、被害のリスクが高い。
廃止理由	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が少なく、地域住民の大会でも利用していない。 ・近傍に代替施設がある(篠ノ井運動場)。 ・浸水被害が多く復旧費がかさむ(平成25年、平成29年、令和元年と頻繁に被災)。 ・今回の復旧費用が高額(約50,000千円)
後利用	<ul style="list-style-type: none"> ・農地としての利用(売却・貸付等)を検討する。 ・一部の国の土地は返還する。(全体面積17,623㎡ 内:市有地面積13,782㎡)

【被災状況写真】



3 河川敷運動場の一部廃止について

(2) 万年島運動場

施設特徴	<ul style="list-style-type: none">・利用者が少ない(平成30年度 1,300人)。・グラウンド面積が狭い(大人の野球には不向き)。
廃止理由	<ul style="list-style-type: none">・利用者が少ない。・近傍に代替施設がある(大豆島運動場)。・千曲川河川事務所による堤防整備事業によって取付道路が利用出来なくなり、新たに設置する場合は、市の負担となる。
後利用	<ul style="list-style-type: none">・全て国の土地であるため返還する。(全体面積8,489㎡)

【被災状況写真】



3 河川敷運動場の一部廃止について

2 協議の経過と今後のスケジュール

日 程	内 容
R 2.11月 ~R 3. 1月	・ 地元市議会議員説明 ・ 地元地区（篠ノ井塩崎区、南屋島区）説明、同意を得る
R 3. 1.28	・ 部長会議
R 3. 2. 3	・ 市議会政策説明会
R 3. 2. 4	・ 法規審査委員会 長野市営運動場条例の一部改正（塩崎運動場の廃止）
R 3. 3月	・ 市議会定例会（議案提出）